

システム開発の現場力を磨く

日経

SYSTEMS

2008年6月26日発行(毎月1回26日発行)第183号 1993年6月18日第三種郵便物認可

7
2008 July

[特集1] 最初の難関はこう突破する

RFPの 作り方、伝え方



[特集2]

トラブルを最小限にする
謝る技術

[特集3]

現場の課題別

最新バックアップ製品

[検証ラボ]

Webフレームワークの性能
Ruby on Railsは新版で1.5倍高速に

[絵で見るテクノロジー]

CPUパワーを集めて大規模計算
グリッド・コンピューティング

[連載講座]

コミュニケーション・スキル再入門
プロジェクト・マネージャに必要なスキル

の活動も視野に入れた将来設計を考えていきたいと思っています。いろいろな方の実体験や、最近の傾向もあわせて人材事情も特集していただけると大変参考となります。

(匿名希望, 36歳, 神奈川県相模原市)

開発ドキュメントの講座が参考に

5月号の連載講座「図解で磨く開発ドキュメント」は、データフロー図の書き方が非常に参考になりました。業務で役立ちそうです。

日経SYSTEMS本誌の記事はITエンジニアに必要なスキルが横断的に掲載されており、いつも楽しみに拝見しております。要求定義など上流工程におけるヒアリング、インタビューのテクニックや各業界の業務知識、データベース設計、実装のテクニックなどの記事について、今後も楽しみにしております。追加で「システム基盤を構築する際の考え方」のような特集も希望します。

(匿名希望, 38歳, 兵庫県芦屋市)

参考書籍の紹介ページがあるとよい

このところ特集が3本立てであるが、同じ誌面の中でそれぞれの特集を通じ、広く浅く情報に触れることができるのは一つのメリットだと思う。願わくば、さらに深く知りたい場合に参考にする書籍などの紹介ページを毎回つけてもらえるとうありがたい。

(匿名希望, 35歳, 仙台市)

▲貴重なご意見ありがとうございます。検討いたします。(杉山)

ビタミンSE

最近、職場でキレて事件を起こすITエンジニアの話をししばしば耳にするようになりました。上司や同僚に背後から殴りかかる、受話器を床にたたきつける、「いつか仕返ししてやるから!」などとんでもない捨てぜりふを残して出社しなくなる…。普段はおとなしい人が急に、そんな常軌を逸した行動を取ってしまうというのです。その場に居合わせた上司や同僚は、突然のことにあっけにとられてなすすべもないとか。

静かな職場は要注意

人はなぜ、キレてしまうのでしょうか。それは、周囲との対立を恐れるあまり、言いたいことを言わずため込んでいるからです。日々うっ積させ続けた思いは、いつか臨界点に達します。こうなると、ささいなことでも感情が暴発して問題行動を起こす、つまりキレてしまいやすくなるのです。実際、上で述べたような事件は「チーム内での言い争いはまれ」「会議の場でメンバーが議論を戦わすことはほとんどない」という一

見、穏やかに見える職場で多く発生しています。

日ごろから自分の意見を積極的に表現するよう心がけていれば、キレることはありません。周囲の上司や同僚の意見や態度を気にせず、自

Dr.ムトーの

ここで一服ココロに一福
和解力



イラスト: 木山 綾子

分の考えをどんどん言葉にしてください。

こう言うと「それができれば苦労はしない。言い争いになったら面倒だから黙っているんだ」と思うかもしれませんが、確かに、誰かの意見に異論を唱えると一時的にちょっと気まずくなることがあります。誰だっ

て、険悪なムードはできれば避けたいものです。

気まずさを恐れない

しかし、シンプルにこう考えてみてください。誰かと意見がぶつかって気まずくなったとしても、和解すればいいのです。和解とは、対立する人同士が互いに相手の考えを認めて譲歩し合い、対立を解消することです。そのためには、まず自分からその相手に理解を示してください。そうすれば、相手も自然とこちらに歩み寄るはずですよ。

くれぐれも「和解するなんてわざわざらしい」「和解するくらいなら、最初から余計なことを言わないほうがまし」などと思わないでください。言いたいことを飲み込んだ揚げ句に取り返しのつかないことをしでかし、後から悔やんでも遅いのです。転ばぬ先のつえ、キレる前の“和解力”です。

武藤 清栄 (むとう せいえい)

国立公衆衛生院(現保健医療科学院)卒業後、医院や相談機関でカウンセリング業務に従事し、1986年から東京メンタルヘルスアカデミー所長。主な著書は「ひとの話を聞ける人聞けない人」(KKベストセラーズ)、「雑談力」(明日香出版)